

# 新名神本線で1DAY PAVE

## NEXCO中日本 名古屋支社発注 5月に生コン365<sup>3</sup>m打設

早期交通開放型コンクリート舗装「1DAY PAVE」が高速道路の本線に適用されたことが明らかとなった。中日本高速道路（NEXCO中日本）名古屋支社が「新名神高速道路四日市舗装工事」に採用したもので、コンポジット舗装のベースとして施工した連続鉄筋コンクリート舗装の一部（橋梁工事の引き渡し遅延範囲）に用いた。1DAY PAVEの高速道路本線での適用は初と見られ、一層の普及拡大が期待される。



大林道路・佐藤渡辺特定建設工事共同企業体が施工を担当した「新名神高速道路四日市舗装工事」

施工は今年5月20、25、27の3日間にわたって行われ、大林道路・佐藤渡辺特定建設工事共同企業体が行った。引き渡し遅延範囲の工程回復を図る

ため、JV側から1DAY PAVE適用の技術提案をNEXCO中日本に行っており、採用された。施工規模は橋梁の前後の計3カ所で、延長計約180×幅員約8m（面積は1440平方メートル、版厚は28センチ。生コンの製造・出荷は中部太平洋生コン四日市工場が担当し、出荷量は365立方メートルだった。生コンは一般的な1DAY PAVEと同様に早強ポルトランドセメントと高性能AE減水剤標準形を使用。骨材は中部太平洋四日市工場が日常的に使用しているもので、粗骨材は石灰石砕石2005、細骨材は三滝川流域産の陸砂の荒目と細目を粒度調整して用いた。水セメント比は35・0%（単位セメント量433キログラム、単位水量155

キログラム）、細骨材率は40・0%。打設はポンプ圧送により行い、簡易フィニッシュで仕上げた後、ほうき目仕上げを施した。現場代理人を務めている青山博所長（所属会社は大林道路）は「通常は1車線ずつ施工するところを、2車線分の幅員約8mを一括で施工するなど多くの工夫をしたが、1DAY PAVEの採用は工期短縮（工程回復）への貢献度はかなり大きい」と述べ、また「工期がない中で、実績のない1DAY PAVEを採用するため、試験施工を行うなど、NEXCO中日本や中部太平洋生コン社とも密接に連携して検討を行い、無事に施工が完了できた」と語る。

新名神高速道路四日市ジャンクションの開通予定は、今年11日となっている。